

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300807		
法人名	社会福祉法人 北光会		
事業所名	あずみ野グループホーム		
所在地	〒038-0241 青森県大鰐町鯖石字浅瀬淵35-5		
自己評価作成日	令和2年8月31日	評価結果市町村受理日	令和2年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和2年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平屋で木造つくりの関節照明の中で、ゆったりとしたときをすごせていると思います。日々の中で役割を持ちながら、共栄共存していると感じています。外出行事や余暇活動も積極的に活動しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>自然、季節を感じられる場所で、地域との関わりも途切れない所にある。共用空間は間接照明が程良く、建物も木材を使用しており照らされた壁や床が柔らかい雰囲気を作っている。観葉植物や季節に合った飾り付けをされており居心地良く過ごせる空間となっている。現在新型コロナウイルス感染症の影響で外出支援は制限もありほとんど出来ていないが、事業所内で居酒屋を開いたり行事や余暇活動には積極的に取り組まれている。事業所理念、グループホーム理念をもとに管理者、職員が取り組まれ、利用者の方がご本人らしく生活できるグループホームとなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼後に事業所の運営理念、グループホームの運営理念を勤務者全員が唱和している。	事業所理念、グループホーム理念は玄関前にも掲示されており、管理者、職員全員が毎日唱和され、共有しながら話し合い実践に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夕涼み会や大鰐ホーム祭りなど催し物等を通じ、地域住民と交流を図っている。また、長寿福祉祭にも参加している。	現在新型コロナウイルス感染症の影響がある中、地域でのお祭りや催し物等に案内を頂いている。人数制限をして参加されたり、近所の方から季節の食材をいただいたり日頃から地域の一員として交流されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイトになり地域のサポーター講座に協力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議を開催し、入居者家族や地域住民からの献身的な意見を聴取している。	感染症の影響で一時期は書面での確認をし工夫され、7月頃から密にならない場所での2か月に1回運営推進会議が行われている。区長、町の保健福祉センターの方、地域住民、家族、ホーム次長が参加され、そこで出た意見や提案等をサービスに活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大鰐町福祉担当者と必要に応じ連絡調整を行っている。	町の福祉担当者と新型コロナウイルス感染症の対応や金銭管理、権利擁護についてなど日頃から連絡を取り協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は表玄関、裏玄関共にセンサーにて解錠している。夜間は不審者の侵入防止の為、施錠している。また、身体を妨げるような身体拘束はしていない。	日常的に職員間で話し合いながら身体拘束をしないケアに取り組まれている。現在は新型コロナウイルス感染症の影響で外部への研修にはほとんど行っていないが、以前は個々に行っていた研修内容を職員全員が周知できるように取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に園内外研修等で、虐待防止について理解を深め、また、虐待防止マニュアルを作成、職員が閲読し、虐待が起きないように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	園内研修や部外公衆で学ぶ機会を得ているが、難しく理解に苦しむ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と対話を持ち、十分な説明と疑問、質問等に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを実施したり施設内には意見箱も設置されている。	現在は面会時間制限があり、グループホーム内には意見箱を設置している。そこで出た内容やアンケートの中から出た意見、要望等は会議の中で話し合いをしたり、日常的にその職員間で話し合いをし運営に反映されている。又、法人内での情報交換も活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議の他にも適宜、意見を述べる機会はある。	管理者は申し送り時や申し送りノートを利用し職員の意見や提案を反映されている。又、他にも随時日常の会話の中からも意見を聞いており、情報共有できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理会議等にて意見交換はしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間、行事や余暇活動などの組み立て方など協力しながら行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することにより交流を持つことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションを図り、心配な事、対応して欲しい事、やりたい事などを聞き出し、安心で安全な生活環境を提供している。(私の気持ちシートの活用)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望等を受け止め、実践出来るよう努力している。また家族に入居者の状況を細目に報告し、家族との連絡を密に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の環境を把握に努め、極力在宅での生活への延長のような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いできる事を協力していただきアットホーム的な環境作りに努力している。入居者同士や職員とのコミュニケーションを図りながら、家庭的な雰囲気を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めに手紙などで健康状態や生活状況を伝え来園時は家族とのコミュニケーションを多く持ち、本人を交え家族等の要望を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は外出制限などあり、地域住民で住み慣れた場所や行った事のある場所をドライブしたりしている。	現在は制限もあるため外出することはほとんど出来ていないが、以前までは馴染みの美容院へ行かれたり、住み慣れた場所へ外出されたりと関係が途切れない支援をされている。現在は馴染みの場所へドライブへ行かれたりと工夫されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、行動癖などを観察し、利用者同士が喧嘩しないよう努めている。また共通の話題等を提供しお互いに会話を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同事業所館内に在籍のある利用者様の退居後は様子を伺い会話を持ち接するようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを傾聴し、生活パターン等を重点に置き、食器拭きのお手伝いや煮干しの袋詰めなど出来る事のお手伝いをお願いしている。	利用者一人ひとりの表情や会話の中から思いを汲み取り、本人の意向の把握に努めている。困難な利用者に対しては他職種の方と協力し工夫しながら本人本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの会話、本人との会話や入居時の身上調書、サービス計画書などから把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員とのミーティング及びケース記録の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの意見・要望を確認し、カンファレンスで意見や状態の変化を検討。その内容が介護計画に反映されている。	家族・利用者の意見、要望は日頃から聞き取り、センター方式の一部を利用しながら担当のケアマネジャー、管理者、担当職員で話し合いそこで出たアイデア等を反映し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務会議等で職員間で情報の共有をしている。また業務日誌、ケース記録、連絡ノート等で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、外出、必要物品の購入等で家族が対応出来ない時は施設側で対応する等、個々のニーズに対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接しているデイセンターへ出掛け、利用されている地元の方と交流を図り、ふれあい訪問を楽しんでいる。また菜園作りをし収穫を楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望、家族等の希望を第一優先にし、かかりつけ医との継続治療が出来るよう配慮している。	現在も利用者、家族の希望を大切にし、家族協力の下かかりつけ医を利用されており、往診もあるため緊急時にも連絡することで対応でき安心して適切な医療を受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は不在であるが、必要時隣接しているデイセンターの看護師へ相談や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネが病院の看護師と情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化となった際は、同事業所内の施設への移行を確認しながら進めて行く。	終末期ケアは行っていないが、利用者が重度化となった場合、本人、家族へ確認しながら法人内の事業所へ移行を進めていく体制となっており方針はしっかりと決まっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成及び閲読。見える場所に職員連絡網図や入居者家族一覧		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応マニュアルを作成している。定期的に昼間と夜間を想定して火災訓練及び地震を想定した防災訓練をしている。水害に備え年1回、高台への避難訓練も行っている。また非常食や災害用品を備蓄している。	災害時マニュアルを作成しており職員全員が周知している。又、定期的に昼間、夜間の避難訓練、火災、地震を想定した防災訓練を実施しており、ハザードマップもあり年1回高台への避難訓練も行っている。非常食や災害用品も備蓄しており期限を守りながら管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方には、聞き取りやすい耳の方からジェスチャーを交えた声掛けを行っている。	日頃よりプライバシーや尊厳を損ねないよう対応されている。難聴の方にはジェスチャーや耳元で声掛けを行う等、周囲にも配慮した対応を心がけている。職員間で情報を共有し人格を尊重し取り組まれている。不適切な対応にならないよう職員間でも確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が個々の場面で選択出来るような声掛けを行っている。例えば、出前時のメニューの決定、外出着の決定など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃の観察から、出来るだけその人のペースに合わせ、見守りを強化し安全に生活できるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができるような環境を作り、不備な箇所は職員がアドバイスを行っている。男性入居者には毎日髭剃りの声掛けをしながら、身だしなみが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に食事をして、個々の好き嫌いを把握し、献立に活かしている。日曜日は入居者と一緒に昼食作りを行っている。	包丁を使える方、盛り付けができる方の力量に合わせ利用者、職員と共に調理し作られている。近所の方からいただいた季節の食材等をその都度メニューに加え、季節を感じながら食事が楽しみとなるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大鰐ホーム管理栄養士の献立により栄養のバランスを図っている。日々の食事や水分の摂取量を見極め、不足者には個々に対策を講じている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	下膳後、個々に声掛けで口腔ケアを実施している。自力でできない入居者には介助にて行っている。夜間は義歯洗浄液に明朝まで浸けて、殺菌消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日常の排泄チェック表を参考にして、定期的なトイレ誘導を実施し、尿失禁の防止に努めている。	グループホーム独自の排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握されている。パターンを職員間で共有し、パターンや表情から汲み取りさりげない声掛けをしてトイレ誘導を行い自立に向けた支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を把握し、便秘の入居者には下剤を服用し、排便調節を行っている。定時の水分補給や牛乳やお茶を飲んで頂き、便秘の解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	3日に1回は入浴できるよう順番を決め行っているが、本人の希望を第一優先にしている。	週2回入浴を行われている。利用者が入浴を希望しない場合は、日にちを変えたり時間をずらし対応され、時々お風呂にりんごやゆずを浮かべ入浴を楽しめるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも本人の要望があれば、自由に居室で休息していただいている。また夜間は個々のプライバシーを尊重している。(夜勤者の定時の巡回見守り実施)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルに薬の効能、説明書を保管し、誰でも閲覧できるようにしている。受薬の都度、確認している。必ず手渡す際は誤飲防止の為、薬袋に記入された名前を呼称確認し、手渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に応じた、行事・余暇活動計画を立案し、実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の支援を受けながら、美容院への外出、ショッピングの支援などを行っている。(一部の入居者のみ)	現在は制限もあり外出はほとんどできていないが、時間を決めて気分転換にドライブをされたりと工夫されている。以前は家族の協力等も受け、利用者の希望に沿って日常的な外出支援がされている。自粛解除後には、色々と企画を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の大半は職員が購入品の出納簿をつけ管理している。自己管理している入居者は、職員と共に買い物を行い、盗難防止、金銭感覚の維持に努めている。(一部の入居者のみ)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、自由に使用できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	間接照明でやわらかく、ブラインドで日差しを調整している。観葉植物や入居者が作った作品などを飾り、居心地良くなるようにしている。	共用の空間は間接照明が程良く、建物も無垢木材を使用しており照らされた壁や床が柔らかい雰囲気を作っている。観葉植物や季節に合った設えをされており居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況により、テーブル席やソファ席を変えて気分転換を図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時前から使用した衣類や茶碗などを持ち込んで頂き、落ち着いた生活環境を作っている。生活必需品は必要最小限にし、居室が狭くならないようにしている。	利用者が入居前に使用していた茶碗、コップ、はし等を使用され居室には馴染みの物を置いたりと以前暮らしていたような空間で居心地良く過ごされるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の場所やトイレの場所がわからなくなった入居者の為に大きな表札やイラストの目印などを貼って対応している。		